

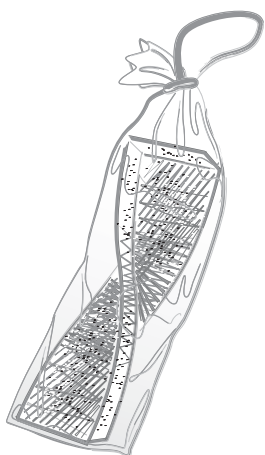


季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〈第五号〉

雨水

二月十九日



松尾観音初午

伊勢で初午^{はつうま}といえば、三月初めの午^{うま}の日。

この日に災難除けを祈願するとご利益があると古くからいられています。
楠部町の松尾観音では、今年は二月二十八日、三月一日に初午大祭を行います。

松尾観音寺は、奈良時代の七十二年に高僧、行基^{ぎょうき}が伊勢参拝の折に松尾山に創建したと伝われます。本山も末寺も檀家もたない、願掛けのために建てられた祈願寺です。

山号が龍池山というように、この寺の本堂の裏には龍池と呼ばれる二つの池があり、東の池に雄龍が、西の池には雌龍が住み、寺を護っているといわれます。仏法を護り、雨と水を支配する龍の形をした龍神さま。二つ池の龍神さまは、今から六百年前、本堂が火災にあったときに現れ、雄龍が本尊の観音さまに体を幾重にも巻きつけて災から護り、雌龍は池の水を炎に吹きかけて寺を護ったという伝説が残っています。以来、毎月の末、二つの池にはお酒、卵、米をお供えするのが寺の慣わしとなっているそうです。

本尊の十一面観音菩薩は非公開。ふだんは「前立ち^{まえだち}さん」が表に出ています。

ご本尊は十二年に一度午年の三月の大祭のみにご開帳されます。十一の顔と四本の腕をもつ十一面観音。この仏さまは不思議と水の信仰と結びついていると随筆家の白洲正子さんは著作『十一面観音巡礼』に記していますが、季節はちょうど種まき、植え付けをする前に田畑の土をすき返して柔らかくする春耕^{しゅんこう}の頃。松尾観音のある楠部町は農業の盛んなところで、三月の初午の賑わいは、本格化する農耕を前に大切な水の神さまに祈願する、そんな信仰もあるのかもしれない。

文 千種清美

